

# うむい12号

社報「うむい」について

沖縄の言葉で「思い、願望、考え方、所存」のことを「ウムィー」といい、戦争で亡くなっていた人達の思い、そして残された遺族、戦友達の思いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。

創建七十五年記念事業新社務所造営

## 上棟祭斎行



会長、副会長、現場代理  
人によって散餅・散錢が  
行われました。(写真下)



祭典後は建物地上階部分の一部にて直会を行いました。お祝いの盃を上げました。十二月六日の竣工に向けてあと一息です。全国の皆様からの奉賛金も目標達成近くになりました。更なるご理解ご協力を切に願います。

P6 P7 関連写真

十月十六日 新社務所の上棟祭が宮司斎主により役員・総代・工事関係者参列のもと厳粛に斎行しました。「弥栄」の発声と共に餅や賽銭が撒かれると一層賑わいを見せました。また、棟札と沖縄独特の「紫微鑾駕」と書かれた板札の二枚を持柱に掲げました。この「紫微鑾駕」は棟木に記すシナ起源の呪語で遠く昔シナから沖縄へ伝わったものです。現在は一般に防火の護符とされて沖縄で用いられています。



「紫微鑾駕」左

賑々しく上棟行事



## 平成二十二年寅年に想う

会長 座喜味 和則

平成二十二年寅年は早や十月後半となり、後二ヶ月余で終わろうとしています。創建七十五年記念の「新社務所造営工事」は三月八日に「地鎮祭及び起工式」を挙行。五月初旬から中旬にかけての雨季、三回の台風などにより工事に支障をきたしましたが、十月十六日に「上棟祭」を終え、十二月上旬の竣工に向けて拍車をかけています。完成後は境内が広くなり、休憩室もあり、お年寄りや身障者用のスロープが設置されてご参拝が便利になります。来るお正月の初詣に多数の方がご参拝されることをお待ちしております。

今年を回想すると若者の活躍が目覚ましい年であります。全国高校野球選手権では興南高等学校が春季と夏季の連続優勝の大偉業を成し遂げました。春夏連覇は全国で六校目で、真紅と紫紺の二つの大優勝旗が沖縄に渡ってきました。大きな名誉であります。ゴルフ界では宮里藍選手が二月二十一日にタイ国での米女子プロゴルフトーナメントで優勝、五月二日にメキシコでの米女子プロゴルフトーナメントで優勝、十月四日に茨城県で行われた国内女子ゴルフトーナメントでは宮里美香選手が二十才の若さで初優勝、平成生まれで国内ツアーユニットは彼女が初めてのこと。

また新装になった奥武山公園内の「沖縄セルラースタジアム那覇」ではプロ野球公式戦が行われ、沖縄でのプロ野球公式戦は実に三十五年ぶりで沖縄の野球界発展に光明を与えてくれました。

沖縄県の政治的、社会的問題として米軍普天間飛行場の移転問題、不発弾の処理と遺骨の収集、尖閣列島の中国漁船衝突事件と船長の釈放等も大きくクローズアップされました。

さらに今年の「ノーベル化学賞」には北海道大学名譽教授、鈴木章博士と米バデュー大学特別教授、根岸英一博士が授与されました。世界に誇る栄誉で誠に喜びに堪えません。心からお祝い申し上げるとともに今後の更なるご活躍を祈念して私の挨拶と致します。

また新装になった奥武山公園内の「沖縄セルラースタジアム那覇」ではプロ野球公式戦が行われ、沖縄でのプロ野球公式戦は実に三十五年ぶりで沖縄の野球界発展に光明を与えてくれました。

沖縄県の政治的、社会的問題として米軍普天間飛行場の移転問題、不発弾の処理と遺骨の収集、尖閣列島の中国漁船衝突事件と船長の釈放等も大きくクローズアップされました。

さらに今年の「ノーベル化学賞」には北海道大学名譽教授、鈴木章博士と米バデュー大学特別教授、根岸英一博士が授与されました。世界に誇る栄誉で誠に喜びに堪えません。心からお祝い申し上げるとともに今後の更なるご活躍を祈念して私の挨拶と致します。

この調子でいけば我が国の命運は将来沖縄の某公機関の嗅覚とさじ加減で決定されることになります。すな一大事!の時は、このまま政治不正になるのでしょうか。隣国にとつては、こんなにやりやすい柔軟国はありません。その海底資源、國力、低給料労働者流入国として最も魅力ある国であります。わずかかと「友愛」につけ込んでこれからも国策として土地買収をさらに促進することでしょう。経済も政治も教育も外国人参政権法案が通過すれば、彼らの意のままにされることであります。はたして、わが国民はこの檜舞台・沖縄の動きをどう見ているのでしょうか。「海陸のいづれを知らず姿無きあまたの御靈國まもるらむ」と、皇后陛下がお詠み下さった英靈を、お祀りしております護国神社のはたすべき役目は何でありますか。とくに沖縄県の護国神社はどうあるべきでしょうか。

あの大戦末期に人口四人に一人の割合で戦没した県民の遺族が、この沖縄県護国神社を昭和三四年に復興して、いまや正月の初詣に、人口四人に一人の割合の二四万人が、世界平和、國家安泰、家内安全を祈られるためにやってこられます。

今日の平和と幸せを遺して下さり、お護り下さっている英靈のみたま、護国の大神のますますの御神徳宣揚を期し、県民の皆さん、全国の皆さんの崇敬の心にお応えして、念願の新社務所建立の上棟祭はこの一〇月一六日に斎行し、二月六日には竣工式を迎えることになります。今や檜舞台・沖縄の神社として名実ともに生まれ変わることを期して、深く自覺しなおしております。皆々様の並々ならぬご協賛を心から感謝申しあげ、今後ともご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

宮司 伊藤陽夫



## 護国の大神へ期待たかまる

いまや沖縄は日本の檜舞台です。一国の総理を超えて、那覇地検の一次席検事が國の舵を取ることが出来て、那覇地検の一次席検事が國の舵を取 paramString

## 身障者の大会にも

続いて第五回目の御来県は、同じ年（昭和六二年）の一月十四日同じく沖縄市の沖縄県総合運動公園陸上競技場で行われた第二三回全国身体障害者スポーツ大会の開会式への御臨席のためです。この年が国際連合の定めた「障害者の十年」の中間年で、沖縄が本土復帰して一五年目の年という記念すべき年でした。第一回大会はこれより二年前岐阜県で行われました。当時は障害の治療の面から主として考

えられた大会であつたらしいですが、今回とくに皇太子殿下のご挨拶では、「この大会は身体障害者がスポーツを楽しむ契機になるとともに、身体障害者をも含む多くの人々が、身体障害者スポーツに対する理解を深めることに大きな意義が見い出されるように思いました。」と強調されています。今日のパラリンピックが世界的な盛況を催すことを予測されたかのようなお言葉ではありませんか。しかもこのご挨拶の中でも次のようにおっしゃって下さいました。

「先の戦争ではこの島で数知れぬ多くの人々が亡くなりました。この度、海を越えて沖縄県に来られた選手、役員の皆さんには、県民の苦難の歴史を心に刻み、県民との心の交流を通して、沖縄県への理解を深められるよう念じております。」殿下一貫した沖縄県に対する熱い思いが

## 沖縄にそそがれる大御心（承前）

編集部

天皇・皇后両陛下初めての行幸啓  
(第六回目のご来島)

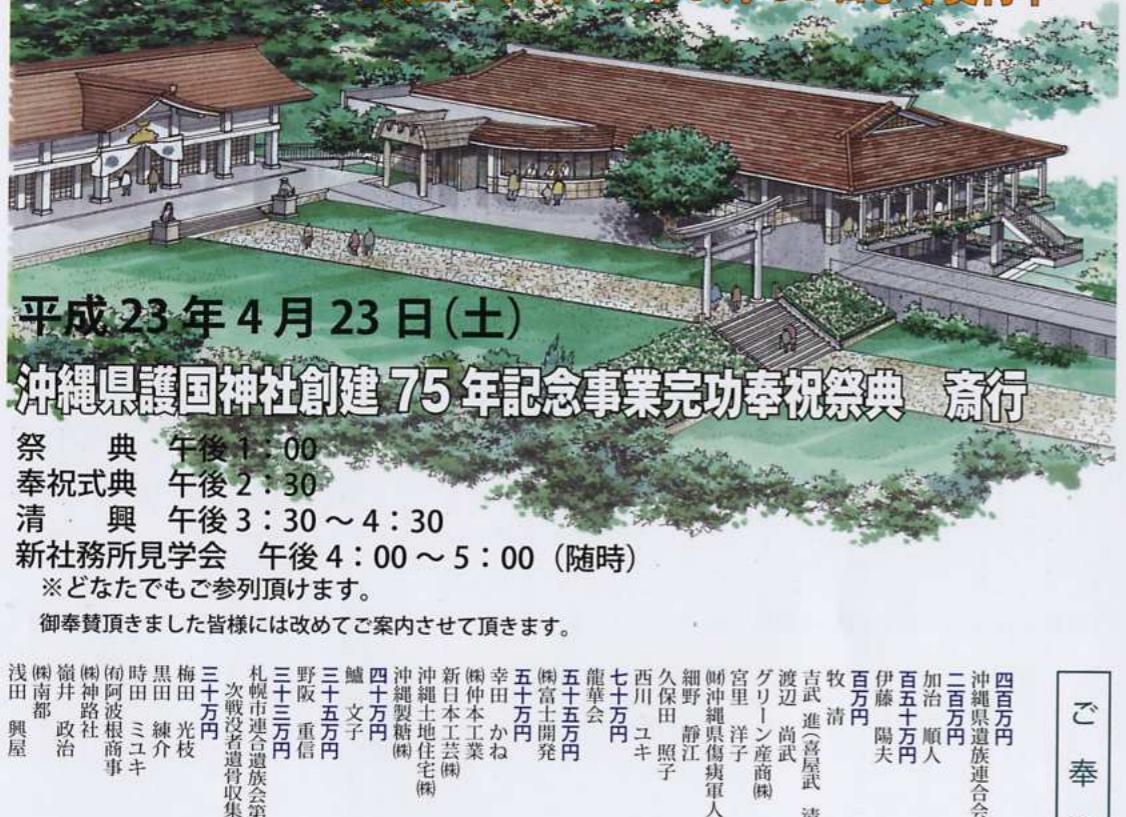
それから年月が流れ、平成五年四月二三日。第六回目の御来島に当たつても、まつ先に国立沖縄戦没者墓苑にむかわれています。そしてひめゆりの塔に花束を献げて御拝礼。昭和五〇年にはあの事件のため果たせなかつたひめゆり平和祈念資料館をご観察。女学生たちの遺影や南風原陸軍病院跡などの復元展示も時間をかけてご熱心にご覧になりました。

平和祈念堂で「各市町村の遺族代表」とし

て約百五十名に限られた人々に丹誠込めて語られたお言葉は次の通りであります。「ねぎらいの言葉」という見出しで地元新聞(『琉球新報』)の平成五年四月二十四日朝刊に掲載されました。「即位後早い機会に訪れたい」という願いがかない、きょうから四日間を沖縄県で過ごすことになりました。到着後、国立戦没者墓苑にもうで、多くの亡くなつた人々をしのび遺族の深い悲しみに思いをいたしています。先の戦争では、実際に多くの命が失われました。中でも沖縄県が戦場となり、住民を巻き込む地上戦が行われ、二十万の人々が犠牲になつたことに対し、言葉に尽くせぬものを感じます。ここに深く哀悼の意を表します。

戦後の沖縄の人々の歩んだ道は厳しいものがあつたと察せられます。そのような中でそれぞれ痛みを持ちつつ、郷土の復興に立ち上がり、今日の沖縄を築き上げたことは、深くねぎらいたいと思います。今、世界は平和を保つていくためには、一人ひとりの平和への希求とそのため努力を払っていくことを日々積み重ねていくことが必要だと思います。沖縄県民を含む国民とともに、戦争のために亡くなつた多くの人々の死を無にすることなく、常に自國と世界の歴史を振り返り、平和を願し続けていきたいものです。遺族の皆さん、どうかくれぐれも健康に留意

# 来る4月23日 新社務所見学会も実施 第53回春季例大祭にあわせ完功奉祝祭 奉賛金は平成23年3月31日まで受付中



平成23年4月23日(土)

沖縄県護国神社創建75年記念事業完功奉祝祭典 斎行

祭 典 午後1:00

奉祝式典 午後2：30

清興 午後3：30～4：30

新社務所見学会 午後4：00～5：00（隨時）

※どなたでもご参列頂けます。

御奉賛頂きました皆様には改めてご案内させて頂きます。

「お言葉」と「声掛け」で確執

天皇効果<sup>ムカシ</sup>を艶消ししようとする、当時革新県知事を擁する反日県沖縄への行幸啓のため、宮内庁も苦労が多かつたようです。先のこのお言葉にこそ御来県の本意が込められてあって、それを「しらしめす」ために早く何度も行幸啓の機会を督促してきたはずにも拘わらず、それを阻止してきたのが沖縄県の姿勢であつたと言われています。

しかも強圧的な儀式としての「お言葉」は不要であると県側から牽制され、陛下の大御心を知る宮内庁としては折れるわけにはいかず、せいぜい遺族の代表の方々に「お言葉」をそれも原稿を読み上げるようなものでなく、お声掛け程度にしてほしいとの県側の主張に妥協をせざるを得なかつた確執が報じられていました。

従つて天皇陛下は當日原稿無しで暗誦するような形でお言葉を述べられました。そのためその日の朝、報道関係者に配っていた「予定稿」と少し相違が生じることになったため、愚かにも記者たちが騒いだようです。陛下は生真面目にお書きになつたものを思い出しながらゆつくり丁寧にお話しになられました。その結果お言葉「二分」という予定が「六分」になりましました。慣例通りにしておれば、陛下に暗記暗誦のご労苦をおかけしなくて済んだし、日程もスムーズにいき、予定稿相違騒ぎもなかつた筈。

植樹祭に天皇陛下としてのお言葉

ともあれ翌日二五日、第四四回全国植樹祭は、午前一〇時一〇分から、沖縄戦で焦土と化した糸満市の米須・山城で開催されました。全国一巡の最後を飾る今回のテーマは「育てよう地球の緑 豊かな緑」でありました。県外招待の二千五百人を含む一万人の参加者が冒頭戦没者を追悼する黙祷を捧げました。次いで主催者を代表して国土緑化推進機構の桜内義雄衆議院議長と県の大田知事が挨拶。記念切手贈呈や「植樹祭の詩」の朗読、国土緑化功労者の表彰などのうち天皇陛下からお言葉が述べられました。そのあと天皇陛下がリュウキュウマツを陛下はフクギを植えられ、それぞれイヌマキとカンヒザクラの種も播かれました。

天皇陛下のお言葉では、この度の植樹祭が沖縄の復帰二十周年記念事業として位置付けられていたことをふまえて、戦争により焦土と化したこの地域において行われることの意義を強調されました。歴史を振りかえられて、この県の島々では豊かな森林が珍しい生き物をもまたこの地域において行わることの意義を強調されました。歴史を振りかえられて、この県

「戦後県民の努力により森林を守り育てるさまざまな運動が進められていることを誠に心強く感じております。」  
と励まして下さいました。糸満市米須・山城の国定戦跡公園で青空のもと一万に及ぶ参列者が感動の万雷の拍手でお応えしました。そして世界十三カ国参加国からの苗木の贈呈儀式、古典音楽や吹奏楽の演奏で盛り上りました。  
このあと両陛下は沖縄市へ長路をかけて比屋根にある沖縄小児発達センターをお尋ねになりました。障害児医療福祉を視察され。療養中の子供たちを励ました。  
この植樹祭によせて御製を賜っています。沖縄の言葉で琉歌です。

ミルクユユニガティ  
シリタルヒトウタト  
ウイクサバヌアトウニ  
マツイユウイタン  
(弥勒世よ願て  
に松よ植ゑたん  
大意——平和な世界を願つて集まつた人々と、戦場の跡に松を植えました)

革新県政の愚策が災いしたものでした。二四日は午前中県庁をご訪問。大田知事から公民館に。午後県立名護厚生園などをご視察。夜は午後六時半からハーバービューホテルで政財界、植樹祭関係者三〇〇名の県要人たちの出席のもと両陛下を歓迎する懇親会が催されました。

「残念なことに、先の大戦でこの森林が大き  
く破壊されました。多くの尊い命が失われた、  
この糸満市では、森林が戦火によつてほとんど  
消え去りました。」

次号



## まもなく完成

工事の様子はホームページでもご覧頂けます。www.okinawa-gokoku.jp/

総道礼法きもの学	下門	菊
沖縄県神道青年会	仲浜	秀喜
那覇遺族会	国吉	昇
二万五千円	仲宗根	ヒロ
條島 源吾	小谷	義秋
二万三千円	小谷	乙次郎
小谷 つね	小谷	嘉吉郎
玉城 定雄	小谷	詠美
二万円	小谷	元吉
佐治 広宣	小谷	實利
沖縄県皇居奉仕会	小谷	千春
玉城 正範	二万二千円	二万二千円
玉城 神尾	吉永	義尊
岡田 切田	早瀬 千代子	ひろ
村上 力	昌久	京子
喜屋武	横山	柳田 保雄
大城 順繩	高津 菊枝	光一郎
徳榮 文子	柳田 光一郎	信義
那覇遺族会	伊江村	スズ
西平 ヨシエ	平田 貞子	与那嶺
屋良の友の会	伊江村遺族会	吾郎

辻功	中村	キク
長崎県連合遺族会	前原	盛祥
奥田義次	平尾	貞幸
稻垣ふさ		
田中昭二		
小倉勇		
白木栄太郎		
吉井静		
渡嘉敷直幸		
西澤功子		
須崎幸子		
喜屋武澄		
坂爪富雄		
内里ツル		
植松香		
松本春高		
米澤務		
松田文江		
鬼頭しげ子		
関フクエ		
神奈川県遺族会		
豊見城地区交通安全委員会		
野村一子		
第八正士本開発		
名嘉眞和歌子		
分林道治		
飯澤清子		
池田麗子		
荒川文子		
荒川		
岡口日出		
鶴広島県傷痍軍人		
第一食糧機		
恩納村遺族会		
袋瀬大昇		
宮城ハル		
㈱沖電工		
北海道連合遺族		
那霸青年会議所		
奥田義次		
辻功		

北野	才クニ
岬宮城県連合遺族会	(例)石川酒造場
広中	房男
平田	其昌
村尾	幸子
伊藤	玲子
小野	うるくそば
日隆	伊藤
徳嶺	玲子
実相塾	代表
上村	古賀信
嘉代子	上村
瀬長	亀吉
瀬長	諱子
範子	諱子
前泊	政男
ホテル東急	ビズフォート
伊佐	相助
座喜味	伊佐
盛哉	座喜味
那朝鋼材㈱	盛哉
佐渡	ノブ子
山本	富美子
佐々木	富美子
田中	幸作
安田	麻夫
河野	光雄
高江洲	愛子
竹川	司
齊下條	司
梶	光雄
吉久	吉久
きみ	きみ
西原	常子
古川	古川
近藤	礼子
末吉	初雄
渡辺	幸枝
トッソ	五色白人一首協
福岡産業振興協議会	福岡県支部
九州経済フォーラム	元澤 敏克
トッソ	五色白人一首協

古我知重  
中武知念  
佐藤松原  
芝本羽津  
マツ子  
武司郎  
麗子  
トミ

岩田	軍一	布野	芳子	関政子
平岡	辰夫	滋賀県護国神社		
未永	悦夫	三浦	ふみ	陸士第54期生会
當山	幸宏	赤嶺	周	當山幸宏
稻福	マサ	伊藤	さだ子	伊藤さだ子
富岡	和彦	北田	手連	北田手連
興雲	義	下田	直弘	下田直弘
媛県遺族会		堀	武士	堀武士
島得	遠藤	神村	朝順	遠藤勝男
仲田	勝男	玉城	正義	神村朝順
稻造	田中	栗野	喜代子	玉城正義
川上	正義	和歌山県護國神社	穂高知県遺族会	栗野喜代子
ふさゑ	未美	金岩	綾	和歌山県護國神社
スナックすがこ	浜東	沖縄県ダバオ会	空の特幹長岡会	金岩綾
	未美	石原	静江	沖縄県ダバオ会
		天野	喜美	空の特幹長岡会
		眞木	喜美	眞木喜美
		備兵庫県遺族会		眞木喜美
		備冲縄式典フランニン		眞木喜美
久貝	順一			



アルミサッシの扉になり防犯上も安全になりました。これまでの感謝を込めて取り外される前に扉のお掃除をしました。

六月二十一日基礎工事も整い建物の土地中央に鎮物を納めました。工事関係者も参列した。全員で大祓いを奏上し更なる安全も重ねて祈願しました。

さらに八月にはこの度の記念事業の中で追加事業となつた、拝殿の扉がアルミサッシに新調され、また拝殿の照明をLEDに付け替える工事も進められました。工事は無事完了し綺麗にお色直しが出来ました。



鎮め物埋納

菊地徳省新里萬岐冲縄県神社庁裏千家業社阿部宗正

西村朝塚新瀬大外三万円上倉本垣川橋山副会長眞喜子

澤田成代主憲法制定沖縄會議正範

野馬面井上商店

濱田弘毅静子美枝

十良澤義治

渡辺良二

伊志領幸子

小柳昌敏米一男

布施茂一

大田田中一

平良田富永

市清市

浦邊工業板木操子一郎

櫻岡勝藏

秦宗文

丹生川上神社下社宮司皆見元久

崎群馬県遺族の会

秋永萬岐新里

菊地徳省新里萬岐冲縄県神社庁裏千家業社阿部宗正

西村朝塚新瀬大外三万円上倉本垣川橋山副会長眞喜子

澤田成代主憲法制定沖縄會議正範

野馬面井上商店

濱田弘毅静子美枝

十良澤義治

渡辺良二

伊志領幸子

小柳昌敏米一男

布施茂一

大田田中一

平良田富永

市清市

浦邊工業板木操子一郎

櫻岡勝藏

秦宗文

丹生川上神社下社宮司皆見元久

崎群馬県遺族の会

原寿男  
柿木克巳  
倉倉スミ  
戸田愛  
小野瀬雅子  
高木寅一  
久保井淑子  
榎原潔  
仲村致慶  
湯澤貞  
大城ときを  
黒川善一  
工藤イク  
岡山県連盟  
佐々木フユ  
深井正昭  
新里順一  
新口ディプロ  
外見照正  
屋良朝正  
空と海とクリニック  
田中英子  
福永博  
竹川千昌  
西紀  
諸星千代子  
橋梯夫  
大嶺正光  
本部御殿元真武館  
白田智子  
瀬川タエ  
喜屋繁子  
岡山県連盟  
平尾己  
池田アサエ  
岡山県連盟  
和雄  
和田  
岡山県連盟  
琉球セレモニー  
スバーホテル那覇  
沖縄食糧㈱

株式会社高橋土建 沖縄テレビ放送㈱ 琉球海運㈱ 山中緑 益田河野 勝正 健太郎 德嶺清栄 アサヒオリオン 力ルビス販売㈱ 一橋勝行 一橋志郎 一橋明人 松田菊児 博子 香讓 坪井東洋 土木工業 豊見城営業所 小林真一 木原章子 大城美菜 橋國太郎 小川芳江 ㈱琉球ボリマ ㈱九電工 沖縄支店 宜保文枝 井上瑞子 生長の家沖縄県教化 ㈲白バラ洋菓子店 木村政勝 阿含宗沖縄道場 大野康孝 堀池四郎 白井公恵 倉前田産業 日本和裁士会沖縄県文 辻信彦 ㈱スカイ企画 熊谷昇雄 フサ子 仲平富永原照屋 俊利枝子

ご奉納ありがとうございます。

平成 22 年 4 月～9 月

東京都八王子市  
山梨県甲府市  
岩手県花巻市  
広島県大竹市  
埼玉県比企郡  
熊本県山鹿市  
大分県玖珠郡  
北海道苦前郡

山本 幸子 様  
佐藤ひでの 様  
瀬長 夕工 様  
松本 春高 様  
福岡 英男 様  
岡部ハツ子 様  
中島美千代 様  
土田 千代 様

愛知県一宮市  
北海道札幌市  
愛知県名古屋市  
高知県南国市  
沖縄県那覇市  
愛知県海部郡  
北海道札幌市

利喜子 様  
後藤 修士 様  
十良沢義治 様  
近藤 義文 様  
西原 常子 様  
与那嶺文子 様  
氣田 一郎 様  
加藤 勤 様

大分県神道青年  
福井県大飯郡  
埼玉県桶川市  
沖縄県浦添市  
京都府京都市  
沖縄県沖縄市  
沖縄県浦添市

高橋 勝田 祐吉 白田 石井 海野 穴井  
繁 繁直志 成代 建夫 智子 恒三 真寿英

「日本は正しい」は200冊奉納頂きました

大東亜戦争は本当に侵略戦争だったのか。  
吉武進（沖縄県在住 94 歳）編者により自費出版された  
著書。日本人に伝えたい思いが込められています。

永代慰靈命日祭祀御供奉納者御芳名

福井県福井市  
野阪 重信 様

寄贈  
圖書

「乃木希典」 乃木神社 様  
「平和を愛する世界人として 文鮮明自叙伝」 大田礼子 様  
遊就館特別展図録 「神風そのふきゆくかなたへ」 青柳英介 様  
近代出版社 様

「乃木希典」  
和を愛する世田  
文

乃木神社 様  
眞人として  
鮮明自叙伝  
大田礼子 様  
「かなたへ」  
青柳英介 様



**大型バスを海軍壇見学ツアー**

8/15 終戦記念日

戦後六十五年の終戦記念日

日本和裁士会沖縄県支部 ライオンズクラブ

7/10 9/11

境内清掃奉仕

ありがとうございました

興南高校 感動をありがとうございます

記事夢成 第92回全国高校野球選手権大会で沖縄県初の優勝を果たし、史上6校目の甲子園春夏連覇の偉業を見せる。試合中は道路の渋滞がなくなり、電話も鳴らなくなる程だ。沖縄が甲子園初出場を果たした当時はまだ復帰前のこと、船で甲子園に向かった。帰りに甲子園の土を持って帰り下船する時、沖縄本島に持ち込む事が出来ず泣く泣く海に捨てたという話は有名。あれから数十年が経ち今の沖縄の子供たちがあのよう粘り強く戦った学徒のようにも見えた。我々監督は優勝インタビューで必ず、「沖縄の皆さんおめでとうございます」と言つた。県民みんなで勝ち取った悲願の勝利なのである。この度の優勝は大変意義のあるものであった。興南高校感動をありがとう。このパワーで現在沖縄に起っている様々な問題も解決出来る事を願いたい。

	7月	8月	9月
1日	広島護国神社職員研修旅行第1班正式参拝	1日	群馬県遺族青少年団正式参拝
6日	広島護国神社職員研修旅行第2班正式参拝	19日	首都圏学生文化会議正式参拝
19日	東京都神社庁渋谷区支部正式参拝	22日	対馬丸慰靈祭宮司長参列
27~29日	皇太子殿下ご奉迎	23日	伏見稻荷大社禰宜黒田秀高様正式参拝
1日	沖縄尚学高校なぎなた部必勝祈願	24日	日本女性の会代表理事安元百合子様同会事務局荒木榮子様正式参拝
5日	倭瑠七様・小嶋さちほ様他舞踊奉納	25日	修養団捧誠会様正式参拝・神石祭斎行
22日	8/15 終戦記念日	26日	那覇遺族会正式参拝
23日	大型バスを海軍壇見学ツアー	27日	東京日語学院理事長荒木幹光様正式参拝
24日	沖縄尚学高校なぎなた部必勝祈願	28日	(株)富士開発代表取締役小尾一様正式参拝
25日	沖縄尚学高校なぎなた部必勝祈願	29日	23日
26日	沖縄尚学高校なぎなた部必勝祈願	30日	海上挺進隊慰靈祭宮司・西谷権宜・木村出仕奉仕
27日	沖縄尚学高校なぎなた部必勝祈願	31日	13日 海軍の塔慰靈祭宮司参列
28日	沖縄尚学高校なぎなた部必勝祈願	32日	17日 しづたまの碑慰靈祭宮司・木村出仕奉仕
29日	沖縄尚学高校なぎなた部必勝祈願	33日	19日 勇魂の碑慰靈祭宮司・秋永権福新社務所鎮物埋納の儀
30日	沖縄尚学高校なぎなた部必勝祈願	34日	21日 埼玉県遺族連合会正式参拝
		35日	22日 宮古神社遷座祭宮司参列
		36日	23日 大分県神道青年会「大分の塔」
		37日	24日 沖縄県戦没者総合慰靈祭
		38日	25日 大分県神道青年会正式参拝
		39日	26日 宮古神社遷座祭宮司参列
		40日	27日 大祓式
		41日	28日 夏越の大祓い斎行 (6/30)
		42日	29日 出雲大社千家達彦管長 (右)
		43日	30日 沖縄県戦没者総合慰靈祭斎行 (6/23)

## 社務日誌抄



4月	5月	6月
12日~17日 皇居勤労奉仕大城巫女参加	13日 生天光神明宮例祭西谷権福宜参列	1~2日 丹生川上神社例大祭宮司参列
15日 沖縄本土復帰記念祭	14日 沖宮例祭宮司参列	3日 出雲大社教統出雲大社教管長千家達彦様正式参拝
15日 沖縄本島健兒の塔慰靈祭宮司・秋永権福宜奉仕	15日 浦添商業高校女子ソフトボール部必勝祈願	4日 いわお戦友会慰靈碑奉安祭
15日 沖縄本島健兒の塔慰靈祭宮司・秋永権福宜奉仕	16日 露天挺進隊慰靈祭宮司・西谷権宜・木村出仕奉仕	5日 大城巫女奉仕
16日 露天挺進隊慰靈祭宮司・西谷権宜・木村出仕奉仕	17日 しづたまの碑慰靈祭宮司・木村出仕奉仕	6日 家達彦様正式参拝
17日 しづたまの碑慰靈祭宮司・木村出仕奉仕	18日 海軍の塔慰靈祭宮司参列	7日 波上宮例大祭宮司参列
18日 海軍の塔慰靈祭宮司参列	19日 勇魂の碑慰靈祭宮司・秋永権福宜・木村出仕奉仕	8日 八幡天水宮深谷幸平様正式参拝
19日 勇魂の碑慰靈祭宮司・秋永権福宜・木村出仕奉仕	20日 大分県神道青年会「大分の塔」	9日 家達彦様正式参拝
20日 大分県神道青年会「大分の塔」	21日 大祓式	10日 大城巫女奉仕
21日 大祓式	22日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	11日 沖縄県戦没者総合慰靈祭
22日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	23日 慰靈祭秋永権福宜助勤奉仕	12日 沖縄県戦没者総合慰靈祭
23日 慰靈祭秋永権福宜助勤奉仕	24日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	13日 大分県神道青年会正式参拝
24日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	25日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	14日 大城巫女奉仕
25日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	26日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	15日 大城巫女奉仕
26日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	27日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	16日 大城巫女奉仕
27日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	28日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	17日 大城巫女奉仕
28日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	29日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	18日 大城巫女奉仕
29日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	30日 夏越の大祓い斎行 (6/30)	19日 大城巫女奉仕
30日 夏越の大祓い斎行 (6/30)		20日 大城巫女奉仕





林美作子さん（中央）  
沖縄本土復帰の日にあたる五月十五日、「沖縄師範健児の塔」において慰靈祭が行われ、林美作子さん（中央）が祝詞を奏す。



沖縄師範健児の塔  
(沖縄県糸満市原波立)

あの対戦の末期、祖国を守るために家族を守るために、学生達は学校単位で鉄血勤皇隊を編成し戦地に向いました。爆雷を抱え斬り込み隊とし戦車に特攻、また通信隊、敵情偵察部隊としても勇敢に戦いました。沖縄師範健児の塔は沖縄師範学校の教師、生徒三八六人のうち散華した三一九柱の学徒が祀られています。そこまで今までに無い厳かな意義深き慰靈祭がとり行われました。

### 一人の想いが慰靈の“和”

ま慰めの舞」が奉奏されました。祭典後には林さんが主催した追悼行事が行わ

れ、県外から倭瑠七さんの舞・沖縄在住の小嶋さちほさん

さんの演奏や

歌など数々の芸能があり、最後

は参加者全員で

「ふるさと」を

歌いました。さ

らに、参列した

沖縄師範学校の

OB二人により

校歌と寮歌が歌われ御靈たちに捧げられました。英靈もさぞかしお喜びだったことだと思います。

年思いつめたことから、永り斎行に辿り

つきました。  
そして、数ヶ月

の気持ちが実

り斎行に辿り

つきました。

雨の中祭典が

行われ祝詞奏

上の後「みた



小嶋さちほさん



倭 瑶七さん



神前に奉納された「光」は沖縄南部の玉城で耕作し実った伊勢ヒカリの初穂を片手に舞われました。

は、再び沖縄に林さんをともない倭瑠七さんと小嶋さちほさん他が来社。当社ご神前に於いて舞や演奏などをご奉納下さいました。一人の想いから始まつたことからこのように発展し御靈をお慰める「和」「輪」が出来たことは、じつに神妙なる事です。英靈たちの喜びの反応が神社社頭の賑わいに輪をかけて行くことでしょう。

新社務所も段々と姿を現して参りました。現在沖縄に降りかかる諸問題解決の活動拠点に発展していくことを願っています。

また、完成後は玄関脇の植え込みに両陛下の御製御歌が歌碑として建立される予定です。その暁には是非両陛下のご参拝を仰ぐ事を期待しております。ご英靈もその日を待ち望んでいることでしょう。ご英靈の御靈のお鎮めなくして眞の平和は築けません。

### 編集後記

## 平成23年厄年表

(數え年)

男性	女性
昭和62年生 25歳本厄	平成5年生 19歳本厄
昭和46年生 41歳前厄	昭和55年生 32歳前厄
昭和45年生 42歳本厄	昭和54年生 33歳本厄
昭和44年生 43歳後厄	昭和53年生 34歳後厄

### 卯年生まれの方

賀11年生まれ	卯26年生まれ
卯62年生まれ	卯14年生まれ
卯50年生まれ	卯2年生まれ
卯38年生まれ	卯4年生まれ

祈願受付は通常9時～5時  
お正月は変更がございます  
のでお参りの際はお問い合わせください。

発行 平成二十二年十月一日

発行所 沖縄県護国神社  
〒900-100-26

編集担当 沖縄県那覇市奥武山町四番地  
TEL 098-857-1798  
FAX 098-857-1798  
印刷所 秋永万岐  
（株）うるま印刷